

2022 年度後期授業改善計画のまとめ

カテゴリー	No	設問	評定平均		改善計画に向けた主なコメント
			学生	教員	
A.目標の理解度	1	1.シラバスや最初の講義等で、授業の目的や目標がどのような内容かを十分に説明した。	4.36	4.50	シラバスを印刷して説明した。第 1 回の授業で授業目的・目標を伝えた。到達目標のことで「これをできることが授業の目的」など、学生が方向を見失わないよう工夫はしているが、理解していない学生もわずかにいる。第 1 回目の授業に参加していない学生、中途から参加する学生への対応は課題。
B.教授手法	2	2.学生の理解度を確認しながら、適切な早さで授業を進められた。	4.23	4.07	わかりにくい部分には時間を割いて説明するが、クラスのレベルに合わない学生もあり、内容を盛り込みすぎたと反省。資格取得に関する科目では、シラバス内容を教えることが目標であるが、一部の学生が授業内容に追いつけないことがある。質問タイムや机間巡回をしているが、声をかけてくれる学生が限られているため、到達度別クラス編成が望ましいと考えられる。
	3	3.学生の理解を促すため、分かりやすい表現で、聞き取りやすくしっかりと口調で話した。	4.29	4.25	授業でマスク着用が必要なため、今後マイクを使うなどの工夫をすることにした。自作のパワーポイントを使ってわかりやすく説明し、早口にならないようにゆっくり話すよう心掛けた。留学生から早口と指摘されたため、特に注意している。
	4	4.黒板やホワイトボードの(オンラインの場合は画面に表示された)文字や資料、やパワーポイント等の内容は、学生が分かりやすいよう工夫をした。	4.20	4.36	授業の講義資料について、B4 サイズで印刷し、色分けや大きな文字などを使って工夫している。パワーポイント資料は、図やイラストなどの、視覚的情報を使い、わかりやすく伝えるよう努め、資料はカラーで配布した。
	5	5.授業は予定時刻通りに始まり、予定時刻通りに終わらせた。十分な授業時間を確保できた。	4.40	4.32	遠隔授業で遅れる事があった。コピー機の故障などで時間がかかったりしたこともあったが、学生にもその旨を伝えて予習などさせることで、状況を理解してもらった。
C.教員の対応	6	6.快適な授業を行うため、学生の遅刻や私語、その他不測の事態に対応し授業の適切な運営維持に努めた。	4.33	4.21	休講することなく、遠隔授業を実施しながら対応することができた。CSL での地域での活動の際、留学生が交通事故に巻き込まれそうになった報告があり、今後は安全に関するレクチャーや工夫を行うことを決めた。授業中には欠席以外の問題はなく、学生の私語も少ない。
	7	この授業では、学生の相談や質問等に対し、教員は分かるように対応していた。	4.34	4.21	授業では毎回、質問があるか確認し、質問に対応するために様々な対応策をとったが、サポートできなかった学生もいた。リアクションペーパーでの質問は少なかったが、丁寧に回答した。出席カードの裏面に質問や感想を書かせ、次の時間に対応している。
D.自学・能動的学習	8	8.学生が授業の内容を自分で調べることができるよう、シラバスや授業内で十分に指導できた。	3.91	4.10	指導によっては文献紹介も行う予定である。反転授業を多く行ったため、予習をしっかりと行うよう求め、教科書の要約や調べ学修、考察などの課題を設けたが、完全に参加しない学生がいた。来年はよりアクティブな学習を実践したいと考えている。
	9	9.学生に対し授業外学習（予習復習・課題など）の必要性や内容について十分に説明した。	4.17	4.21	Google Classroom を活用して、授業で使用した資料やパワーポイントの PDF をアップし、生徒が復習できるようにした。毎回予習・復習の個所を教科書で提示し、学習時間をしっかりと伝えた。課題については適宜出し、成績に反映させた。授業の最初の 10 分間で前回の復習問題を出し、宿題にはワークシートを活用した。
E.目標達成度	10	10.シラバスや講義等で定めた到達目標を意識した授業運営ができた。	4.26	4.10	到達目標については、レポートなどで学修成果を可視化し、しっかりと学生に自覚化させるように努めた。ただ、参加してくれない学生や、このような授業方法を嫌う学生の対応が課題。
F.満足度	11	11.全体として、満足のいく十分な授業運営をすることができた。	4.26	3.92	Google Classroom を活用した複数の提供された教材や資料により、学生の自学習を促進し、授業は 4.0 以上の評価を得た。しかし、数パーセントから 1 割の学生が授業方法を理解できなかったため、到達度別の対応が必要かもしれないと考えられる。学生の意見を聞きながら、より良い授業を目指す姿勢を持ちたい。
G.その他	12	12.対面授業における教室の広さや室温は、学生が学びやすいように配慮した。	4.41	4.32	広さについては考慮できないということで、教室の温度調整や窓の開閉に配慮しながら、学生たちの声を聞きながら教室管理をしている。特にウエスレー館の教室はエアコンの効きが悪く、暑さや寒さについて学生から不満の声があがっている。